

BIMの活用拡大へのアクション

- 日本建築士事務所協会連合会
- 2020.3.6 建築BIM推進会議

1. 「BIMガイドライン」の展開について

- ・ ガイドライン整備は目標ではなく、ガイドラインがBIMの特性や課題について幅広い議論を引き出し、BIMに対する認識が高まるきっかけとなるべきである。
- ・ そのためには、公共と民間、用途、規模によって異なるBIMの使い方について、実例を収集し、課題を抽出する必要がある。
- ・ BIMの普及は社会的な使命である。幅広い普及により、建築界は初めて「BIM活用像」のイメージを共有することができる。

2. BIMを普及させる活動の継続

- ・ 設計者のための講習会・研修会の運営→2019年度に福岡と仙台で実施。今後も地方中核都市での普及に注力。 BIM普及のための講習とともに、受講者フォローアップの必要がある。団体連携が考えられる(例えばBSJなど)
- ・ BIM活用アイデアコンペ→2019年度に学生・実務者の両方に向けたコンペ実施。継続実施の予定
- ・ アンケートによる実態把握→2019年度に実施し、進捗状況と課題を確認し、他団体にもデータを積極提供した。継続的にアンケートを実施し、課題を抽出する
- ・ 団体の会報(「日事連」)での連載開始→最新の情報と、多様な活用事例の提供、2020年度も引き続き継続

単位会だより

栃木会

とちぎ建築プロジェクト2019
—マロニエ BIM 設計コンペティション— 報告



田村哲男
(株) 田村忠設計事務所
栃木会副会長
とちぎ建築プロジェクト
実行委員長

◆とちぎ建築プロジェクト2019

令和元年11月26日、宇都宮東武ホテルグランデにて「とちぎ建築プロジェクト2019」を開催しました。今年度から日事連との共催となり、第1部では「マロニエ BIM 設計コンペティション」の最終公開審査を行いました。前回

までの応募資格は学生のみでしたが、今回から学生と社会人（単位会会員事務所の所員）に拡大するとともに BIM コンペの応募要項および作品の審査方法についても新たなシステムを構築するなど、BIM 技術の普及促進を見据えた

とちぎ建築プロジェクト2019プログラム

■基調講演 1

「文化的地域遺伝子としての建築」

講師：ヨコミゾマコト氏

東京藝術大学教授、建築家
aat +ヨコミゾマコト建築設計事務所取締役



ヨコミゾマコト氏

■基調講演 2

「BIM・コンピューテーショナルデザイン・データが縮ぐ未来」

講師：石澤 幸氏

(株) 竹中工務店設計本部
アドバンスデザイン部
コンピューテーショナルデザイングループ課長



石澤幸氏



池田靖史氏

■鼎談

コーディネーター：池田靖史氏

慶應義塾大学 SFC 政策メディア研究科教授
IKDS 代表、建築家

パネリスト：ヨコミゾマコト氏、石澤 幸氏



3氏による鼎談

■懇親会



懇親会の様子

コンペに生まれ変わりました。

第2部は、マロニエ BIM 設計コンペティションの審査委員である建築家のヨコミゾマコト氏(東京藝術大学教授)とコンピューショナルデザインの第一人者である石澤幸氏(竹中工務店設計本部)による基調講演が行われ、その後、2013年の初回より「とちぎ建築プロジェクト」のアドバイザーを務めている建築家の池田靖史氏(慶應義塾大学教授)がコーディネーターとなり、ヨコミゾマコト氏と石澤幸氏による鼎談が行われました。鼎談では、最新の BIM 技術の動向や建築設計の展望などについて真剣かつ軽快なトークとともに、建築界の第一線で活躍されている建築家としての多様な視点や発想など、貴重なお話をお聞きすることができました。懇親会は、審査委員やコンペ受賞者、学生や建築関係者など多くの方に参加いただき、和やかな雰囲気の中で盛大に行われました。



最終公開審査の様子



BIM 設計コンペ最終公開審査会場

◆マロニエBIM設計コンペティション

今回の BIM 設計コンペの特徴は、学生と社会人が同一の課題に対し BIM を使って 72 時間で案を作成し、提出された BIM の 3 次元データにより審査を行うことです。使用される BIM ソフトに制限がないため、提出物は IFC フォーマットに変換された BIM データおよび作品の魅力を表現した 5 枚の画像データとし、審査は BIM-IFC データをビューワーで閲覧して行われました。

1 次審査では、コンペ実施要領を満たして提出された 41 作品について審査が行われ、学生 5 作品、社会人 5 作品の入選作品が選考されました。入選者は、最終審査用のプレゼンテーション動画を提出し、当日に行われた動画による公開審査の結果、各賞の受賞者が決定されました。



受賞者と審査委員による記念撮影

マロニエ BIM 設計コンペティション概要 (応募要項より抜粋)

設計課題：宇都宮市森林公園サイクルロードセンター

宇都宮市森林公園は、毎年、世界的な自転車ロードレースである「ジャパンカップ」が開催される、ロードレースファンにとっては「聖地」といえる場所です。本建物は、ジャパンカップ開催時にセンターエリアとして、スタート・フィニッシュ地点の観客席となる部分を、通常時にはロードレース愛好家および宇都宮市民の憩いの施設として計画するものです。現時点では仮想の計画ですが、現実味のある応募案が提出されることで、今後のサイクルロード施設整備への期待が高まることを望みます。

■応募要項

応募資格：学生および社会人（単位会会員事務所の所員）
 エントリー期間：2019年10月1日～31日
 設計条件（機能プログラム）の発表：11月3日正午
 実施期間：11月3日正午～6日正午

■審査要領（提出物）

1次審査：BIM-IFC データ、画像データ、設計趣旨
 最終審査：1次審査通過作品の公開審査（動画審査）

■審査委員

審査委員長：ヨコミゾマコト（東京藝術大学教授）
 審査委員：石澤幸（竹中工務店設計本部アドバンストデザイン部）
 池田靖史（慶應義塾大学教授）
 川村定男（とちぎ建設技術センター常務理事）
 佐野吉彦（日本建築士事務所協会連合会理事）

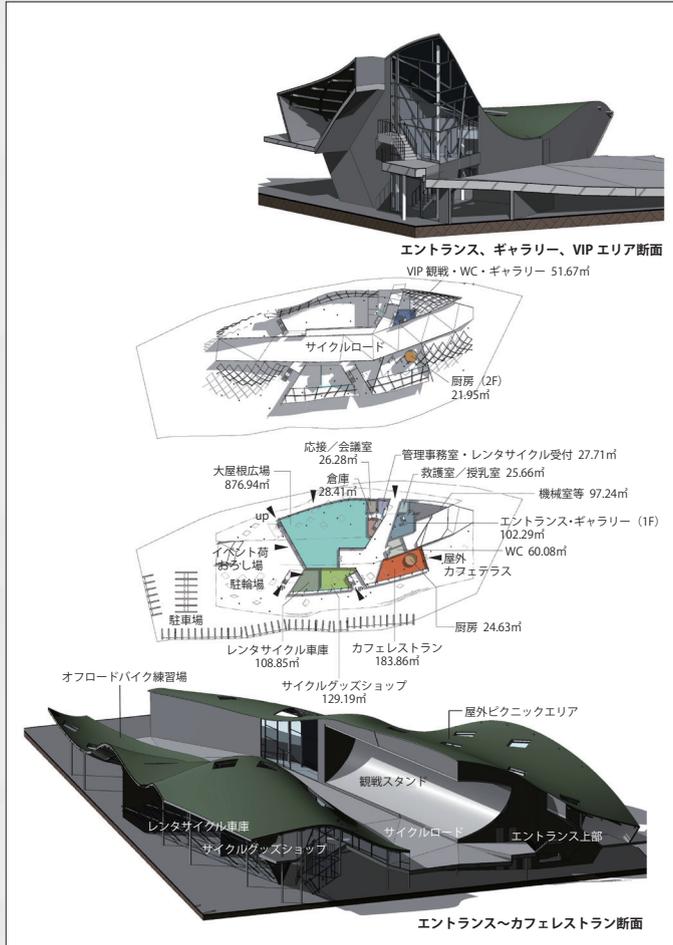
受 賞 作 品 ・ 講 評

○最優秀賞

「宇都宮市森林公園サイクルロードセンター」

阿部仁祐

[養清堂アーキテツク建築設計事務所(神奈川会)]



【ヨコミゾマコト氏による講評】

一次審査において自分は、コンセプト、造形性、祝祭性と日常性、計画性、表現力などの観点から各提案を拝見した。その中で阿部案は、当初それほどの高得点ではなかった。しかし公開審査におけるプレゼンテーションビデオと応募者本人へのインタビューにより、大きく評価が変わった。ご息女が造った粘土模型の3Dスキャンデータが元になっていること、72時間一人作業でその建築化をめざしたトライアルの結果であること、この2つの点が明らかになった時点で、それまでの評価軸は一気に形骸化し、他案に対し圧倒的な存在感を持って最優秀賞が確定した。このような人間味ある作品に出会えたことは、テクノロジー進展の望ましい方向性を確認できたという点で大きな喜びだった。

○優秀賞

ヨコミゾマコト賞

「Wrap」

林直哉 [麻生建築&デザイン専門学校(福岡県)]

ヨコミゾマコト賞

「グランゲート」

本橋範一 [(株)フケタ設計(栃木会)]

石澤宰賞

「走り抜ける織込みの隙間」

樺浩太 [熊本大学大学院(熊本県)]

石澤宰賞

「~PIN BIM~」

鈴江佑弥 [(株)安井建築設計事務所(大阪会)]

池田靖史賞

「空気感」

深浦天 [麻生建築&デザイン専門学校(福岡県)]

池田靖史賞

「未来のにぎわいをつくるBIM」

番屋陽平 [(株)安井建築設計事務所(東京会)]

とちぎ建設技術センター理事長賞

「CYCLOID」

松本大知 [宇都宮大学大学院(栃木県)]

日本建築士事務所協会連合会会長賞

「UTSUNOMIYA RinRin Park」

上村哲也 [大同大学大学院(愛知県)]

日本建築士事務所協会連合会会長賞

「サイクルステーション“みちるべ”」

中岡進太郎 [(株)安藤設計(栃木会)]

*マロニエ BIM 設計コンペティションの受賞者および最終公開審査プレゼンテーション動画は、栃木会 HP にて閲覧いただけます。

▼ <http://www.tjk.or.jp/>

*全受賞作品の画像と講評は、日事連 HP にて閲覧いただけます。

▼ <http://www.njr.or.jp/list/news/2019/01288.html>